

予算決算委員会会議録

1. 開催年月日

令和元年9月18日 開会 9時58分 閉会 11時51分

2. 開催場所

全員協議会室

3. 出席委員名

藤原浩司	佐藤豊	妹尾文彦	多賀信祥
柳原英子	山下憲雄	細羽敏彦	西村慎次郎
荒木謙二	柳井一徳	惣台己吉	三宅文雄
上野安是	簀戸利昭	西田久志	三輪順治
大滝文則	宮地俊則		

4. 欠席委員名

なし

5. その他の会議出席者

(1) 議長 坊野公治

(2) 説明員

副市長	猪原慎太郎	総務部長	渡邊聡司
市民生活部長	佐藤和也	健康福祉部長	山田正人
未来創造部長	唐木英規	建設部長	谷本悦久
水道部長	田中伸廣	病院事務部長	田平雅裕
総務部次長	藤原雅彦	市民生活部次長	井口勝志
健康福祉部次長	沖津幸弘	未来創造部次長	田中大三
建設部次長	岡本健治	水道部次長	飛田圭三
芳井支所長	岡田光雄	美星支所長	川上邦和
健康福祉部参与	和田広志	会計管理者	山下浩道
病院事務部次長	一安直人	監査委員事務局長	妹尾光朗
税務課長	吉本泰人	協働推進課長	川上益史
下水道課長	土屋光史	総務課長補佐	伊藤圭史
福祉課長補佐	片山恭一	商工課長補佐	金政吉伸
上水道課長補佐	丸本健雄	市民課戸籍住民係長	岩本陽子
建設課管理係長	武智義仁		

(3) 事務局職員

事務局 長 宮 良 人 事務局 次 長 藤 原 靖 和

6. 傍聴者

(1) 一 般 0名

(2) 報 道 0名

7. 発言の概要

委員長（藤原浩司君） 皆さん、おはようございます。

少し早いですが、皆さんおそろいなので、ただいまから予算決算委員会を開会いたします。

本日は、特別会計、財産区会計、企業会計及び組合会計の決算を審査いたします。

審査の順は、総務文教委員会関係分、市民福祉委員会関係分、建設水道委員会関係分の順で審査を行いますのでよろしく願いいたします。

これより議事に入ります。

〈認定第10号 平成30年度井原市大倉財産区会計歳入歳出決算について〉

〈歳入歳出全般〉

委員（宮地俊則君） 426ページの中ほど、負担金補助及び交付金ですが、保護料交付金、どういったものでしょうか。

美星支所長（川上邦和君） 財産区の山林を、各自治会もそこを管理をしてくれております。6自治会あるわけなんです、そこに対して保護料という形で年間の管理費を支払っているものでございます。

委員（宮地俊則君） 毎年されてるものでしょうか。

美星支所長（川上邦和君） そのとおりでございます。

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 認定〉

〈認定第11号 平成30年度井原市東水砂財産区会計歳入歳出決算について〉

〈歳入歳出全般〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 認定〉

〈認定第12号 平成30年度井原市宇戸財産区会計歳入歳出決算について〉

〈歳入歳出全般〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 認定〉

〈認定第2号 平成30年度井原市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算について〉

〈歳入歳出全般〉

委員（妹尾文彦君） 305ページをお願いします。

一番上の委託料のところなんですけれども、健康診断を受けた方の人数を言われましたが、もう一度お願いできますか。

市民生活部次長（井口勝志君） まず、特定健康診査、特定健診の委託料が2,049人です。それから、特定保健指導の委託料ですが、こちらは198人分です。

委員（妹尾文彦君） これは、不用額が多いのは、見込みより受診者が少なかったという

ことですが、どれぐらいを見込んでいて、どれぐらいの受診だったのでしょうか。

市民生活部次長（井口勝志君） 当初予算組みの時点では、計画に基づきまして、特定健診の目標、7次総にも掲げておりますが、42%、3,320人程度を見込んでおりましたが、最終的に執行しておりますのは2,049人分でございます。

委員（妹尾文彦君） ありがとうございます。

去年、国の平均では60%ぐらいという話だったんですが、ことしも国の平均は60%ぐらいなんですか。

市民生活部次長（井口勝志君） 60%という数字は国が掲げている目標の数字でございます。これは変更がございません。市といたしましても、7次総の中で最終的にはこの60%を目指していきたいというふうに思っております。

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 認定〉

〈認定第4号 平成30年度井原市住宅新築資金等貸付事業特別会計歳入歳出決算について〉

〈歳入歳出全般〉

委員（山下憲雄君） 337ページの調定額合計の2,897万4,000円、これは現年度分だけでしょうか。

協働推進課長（川上益史君） こちらは現年度分と過年度分が入っております。現年度分が1件、過年度分が12件、合計13件分の調定額でございます。

委員（山下憲雄君） 収入済額が低いように思いますが、これは問題はないのでしょうか。

協働推進課長（川上益史君） 先ほども説明いたしましたが、現年度分については、1件で100%の収納率となっております。過年度分につきましては、全体で1.69%の収納率となっております。

過年度分につきましては滞納となっておりますけど、現在も根気強く収納作業を行ってお

りまして、今後とも収納作業により滞納処理をしていきたいと思いをします。

委員（山下憲雄君） 理由が理由で大変なんですけども、欠損処分というのは今まで出てますでしょうか。

協働推進課長（川上益史君） 欠損処分のほうは今のところ行っておりません。

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 認定〉

〈認定第5号 平成30年度井原市後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算について〉

〈歳入歳出全般〉

委員（上野安是君） 342ページ。

特別徴収分と普通徴収分の人数がそれぞれわかりますか。

市民生活部次長（井口勝志君） トータル件数は説明をさせていただいたとおりなんですけど、人数については資料を持ち合わせておりません。

委員（上野安是君） 特別徴収は当然収納率が高くてというところになる。普通徴収をされていますが、基本的には全員が特別徴収になればいいんでしょうがというところで、その辺ちょっと人数を確認したかったんで、後でも構いませんのでよろしくをお願いします。

委員長（藤原浩司君） では、後ほどということで、でき次第またご報告をお願いします。

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 認定〉

〈認定第7号 平成30年度井原市介護保険事業特別会計歳入歳出決算について〉

〈歳入歳出全般〉

委員（大滝文則君） 初歩的なことかと思うんですけども、397ページの給付費準備基金5,227万8,000円減つとりますが、この積算の金額、項目、どのページを足せばこの数字になるか、お示しいただきたいと思います。

健康福祉部参与（和田広志君） 先ほどの397ページの財産に関する調書の基金は、31年3月31日現在でございます。決算は出納閉鎖期間がございますので、5月末ということで、それに相当するところは372ページ、373ページでございます。ここに介護給付費準備基金繰入金がございます。1,189万7,457円を繰り入れしるところでございますが、これは5月末、出納閉鎖期間を入れればこの額になるわけでございます。

ですでの、397ページはあくまでも3月31日現在でございますので、数字的にイコールになるところはございません。

委員（大滝文則君） わかりました。翌年度になった時点では、この準備基金は4,000万円程度はふえとるといふことで見ればいいんですか。

健康福祉部参与（和田広志君） 失礼しました。5月末での基金の残高でございますが、3億1,323万2,492円でございますので、先ほどの財産に関する調書よりは減っておるところでございます。

委員（大滝文則君） ということは、4月、5月にかなりの金額をまた繰り入れしとるといふようなところでよろしいですか。

健康福祉部参与（和田広志君） 30年度決算による不足分を繰り入れております。

委員（大滝文則君） もう少し出入りを詳しくお示しいただきたいと思います。

会計年度の関係で若干数値が変わってくるのは理解できるんですけども、30年度に1,189万7,457円の繰入金で、ここへ上がっておるのは5,227万8,000円ということで、約4,000万円というものが決算年度をまたいでさきに切り崩しておるといふような話だったんですけども。それからすると、確定した時点で4,000万円は4月、5月にまたその分については繰り戻しをしなければいけないのではないかと思うんですけども、まだ減つとるといふことをちょっと理解できないので、その辺の数値の動き方をもう少し詳しくお願いします。

健康福祉部参与（和田広志君） まずは、財産に関する調書での、3月31日現在での基金の状況でございます。

ここでは、マイナスについては29年度決算の収支不足のマイナス分を繰り入れておりました5,227万8,000円減つとるわけでごさいます、それから3月31日から5月末まで、出納閉鎖期間で30年度決算による不足分1,147万7,000円を繰り入れをしております。そういったことで、歳入のほうの繰入金1,189万7,457円につきましては、30年度分の不足分を基金を崩して繰り入れとるといったところでごさいます。

委員長（藤原浩司君） 参与、それこそもう少し砕けた回答をいただきたいんです。

例えば、今言われたように、プラスになるはずのものがマイナスになるというのが、要因がわからないということ副議長のほうから質問をされたと思うんで、その要因が今言われたように29年度と30年度の2つに分かれてると。その分かれた中で、29年度はどうなつてこうなる、30年度にはどうなつてこうなる。だから、実質収支はこうなるんだよというような言い方をしていただければもっとわかりやすいと思うんですが。

健康福祉部参与（和田広志君） 申しわけございません。財産に関する調書の平成31年3月31日現在での切り崩しについては、これは平成29年度決算不足分を平成30年5月末、ですから1年前の出納閉鎖期間内に切り崩しておるものが財産台帳にはあらわれておるところでごさいます。それから、30年度決算不足分については今年度の3月末までに1,100万円何がしかを切り崩しておるところでごさいます。

いずれにしても、29年度、30年度収支不足分を基金から切り崩して入れておるといったところでごさいます。

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 認定〉

税務課長（吉本泰人君） 先ほど後期高齢者医療特別会計において質問のありました回答をさせていただきたいと思ひます。

決算書の341、342ページの件です。

特別徴収と普通徴収の内訳であります、特別徴収7,290人、普通徴収992人、これは平成30年7月1日の当初賦課期日での人数でごさいます。よろしくお願ひします。

〈認定第14号 平成30年度井原市病院事業会計決算について〉

〈歳入歳出全般〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 認定〉

〈認定第3号 平成30年度井原市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算について〉

〈歳入歳出全般〉

委員（大滝文則君） 329ページ。

委託料の施設管理委託料、美星簡易水道の施設管理委託では、宇戸谷に関して統合したということでありますけれども、前年度よりも300万円、宇戸谷に関しての分を引いても200万円以上の金額がふえとるという理由をお示してください。

水道部次長（飛田圭三君） 美星簡易水道につきましては、宇戸谷簡易水道を統合したことに伴い業務内容を見直し、人員等の配置を見直し、増となったことによるものが大きい原因でございます。

以上です。

委員（大滝文則君） 去年の4月1日に美星簡易水道へ委託しとった業務を井原市の上水と芳井の簡水についても並列と言いましょうか、一緒に見とるといような話も聞いとんどすけども、そのあたりの費用分担について、美星だけにその部分をかぶせるということはちょっとおかしいんじゃないかと思うんですけど、そのあたりはどうなんですか。

水道部次長（飛田圭三君） 美星簡易水道と上水道事業につきましては、業者委託、それぞれ別契約になっております。美星の業務をされている方々が井原におられるということは一元的に漏水対応等にも対応できますし、そういうことを考えた上での対応ということで、美星だけに金額をふやしたというわけではないということでございます。

委員（大滝文則君） 中央簡水の部分は全く昨年と委託料は変わっておりますよね。そうい

うことからちょっとバランスがおかしいんじゃないかと、これについてはまた後日しっかりと検証したいと思うんですけども、しかも4月1日においてそういう見直しをすること自体の報告も一切なかった。そのあたりもちょっと、私もその当時は建設水道委員会へ在籍しておりましたが、一切そういう説明もなかった。今その当時の責任者というのは市役所の中にいらっしゃいませんけど、やはりそこら辺は誤解を招くような事案でありますし、かなり問題があるんじゃないかということがありますので、今後またしっかりと検証していくということで、今回はもうここでやめときます。

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 認定〉

〈認定第6号 平成30年度井原市公共下水道事業特別会計歳入歳出決算について〉

〈歳入歳出全般〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 認定〉

〈認定第8号 平成30年度井原市産業団地開発事業特別会計歳入歳出決算について〉

〈歳入歳出全般〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 認定〉

〈認定第9号 平成30年度井原市美星地区畑地かんがい給水事業特別会計歳入歳出決算について〉

〈歳入歳出全般〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 認定〉

〈認定第13号 平成30年度井原市水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について〉

〈歳入歳出全般〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 可決及び認定〉

〈認定第15号 平成30年度井原市工業用水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について〉

〈歳入歳出全般〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 可決及び認定〉

〈認定第16号 平成30年度井笠地区農業共済事務組合歳入歳出決算について〉

〈歳入歳出全般〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 認定〉

委員長（藤原浩司君） 以上で付託案件の審査は終了いたしました。

なお、委員会報告書の作成につきましては、委員長にご一任願いたいと思います。

〈異議なし〉

委員長（藤原浩司君） 閉会に当たり、執行部で何かございましたらお願いいたします。

副市長（猪原慎太郎君） 閉会に当たりまして、一言皆様にお礼を申し上げたいと思います。

昨日から2日間にわたりまして慎重にご審議をいただきまして、また適切なご決定もいただきました。まことにありがとうございました。また、さまざまな角度からご意見やご指摘もいただいたところがございます。これらにつきましては、今後の市政運営に活かしていきたいと思っているところがございます。

また、監査委員さんからいただいております決算審査意見書にもありますように、平成3

0年度は7月豪雨災害からの復旧・復興を最優先したことから、一部事業の執行保留、繰り越しなどを余儀なくされるなど、特別な年となりました。一日も早い復旧・復興に向けて引き続き全力を挙げてまいりたいと思っております。

また、基金残高の減少、地方交付税の減少も見込まれ、さらには少子・高齢化などによりまして今後も厳しい財政状況が続くことが予測されております。そのような中にありましても財源の確保に努めるなど、適宜事業の見直しを行うなど、選択と集中によりまして第7次総合計画の着実な推進につなげていきたいと思っております。

皆様方におかれましては、どうか引き続き市政運営に深いご理解とご協力をいただきますようお願いを申し上げます。閉会に当たりましての言葉とさせていただきます。本日はまことにありがとうございました。

〈議長あいさつ〉

委員長（藤原浩司君） それでは、以上で予算決算委員会を閉会いたします。